

[趣旨説明] ワークショップ AI テクノロジーと人生の意味

蔵田伸雄(創価大学)
久木田水生(名古屋大学)
長門裕介(大阪大学)

AGI(Artificial General Intelligence)、さらには ASI(Artificial Super Intelligence)も近いうちに実現可能とも言われる中で、個人に最適化された高度な AI アシスト技術も今後進歩していくと思われる。このような技術は今後私たちの生き方の意味をどう変えていくのだろうか。

近年「人生の意味」についての分析哲学的な研究が進み、関連する問題についての議論の蓄積も進みつつある。そして近年、この「人生の意味の哲学」の中でも、ヴァーチャル・リアリティは「意味のある生」を損なうのか、といった問題を始め、AI テクノロジーとの関連についても少なからぬ研究成果が生まれている(Nyholm & Ruther)。AI との関連で人が何をしてはならないかといったことを検討する応用倫理学の一分野としての AI 倫理には、すでに一定の先行研究がある。「AI と人生の意味の哲学」はこのような「AI 倫理」とは異なり、「AI は人生の意味をどう変えるのか」といった問題を扱うと言ってよい。

例えば「意味のある人生」にとって仕事は重要な要素であるが、AI はこのような「意味のある仕事」を奪うのか、あるいはより「意味のある仕事」を与えてくれるのか。AI は、高度な知性にしかできない「意味のある」作業を人間から奪うことで知的労働の機会を奪い、それによって「生きる意味」を奪うかもしれない。あるいは逆に、AI に作業を肩代わりさせることで「意味のある」活動のために使える時間を増やすことによって、人生をさらに「意味のある」ものにできるかもしれない。AI は私たちの能力や活動を拡張して「より意味がある」仕事の遂行を可能にするかもしれない(能力の拡張という論点は AI によるエンハンスメントに、さらにトランスヒューマニズムに結びつく)。また「人工的な人格」とより豊かな関係をつくることで人生はより「意味のある」ものになるのかもしれない。一方それは偽りの関係にすぎず、私たちの人生を「(本当は)意味のない」ものにしてしまうとも言えるのかもしれない。そして AI やロボットとの間に友情や愛情は成立するか、成立するとしたらそれは私たちの人生にどのような意味を持ちうるのか。さらに AGI や ASI に重要な意思決定をゆだねることは人生の意味と自律性を奪うのか。AI は私たちの自己向上に貢献すると言ってよいが、逆にわたしたちを絶え間ない自己向上に追い詰め、社会を変えることよりもナルシシズム的状况に陥らせるのか(クーケルバーグ)。

こういった問題について、例えば人生の意味に関する主観説・客観説・ハイブリッド説のそれぞれの立場から検討することができるだろう。

今回のワークショップでは「人生の意味」に関する研究を進める久木田、長門、蔵田に

よって「AI と人生の意味」に関する問題提起を行い、「人生の意味」と「達成」「現実性の価値」等との関連等について多角的に検討してみたい。

本ワークショップでは、蔵田による趣旨説明の後、まず久木田が「ソーシャル・エージェントはユーザーの生の意味の感覚を減じるか」というタイトルで、AI の普及の生の意味の感覚へのインパクトについて検討する。さらに長門が「AI による達成価値の棄損」というタイトルで「意味のある人生」にとって重要な要素である達成概念について論じる。さらに蔵田が「人生の意味と AI——「経験機械」と「塊」」というタイトルで現実性の価値について論じる。

Sven Nyholm, Markus R  ther, Meaning in Life in AI Ethics—Some Trends and Perspectives, *Philosophy & Technology* (2023) 36:20
<https://doi.org/10.1007/s13347-023-00620-z>

(本ワークショップは科学研究費基盤(B)一般課題番号 24K00001 の助成を受けて実施する)。